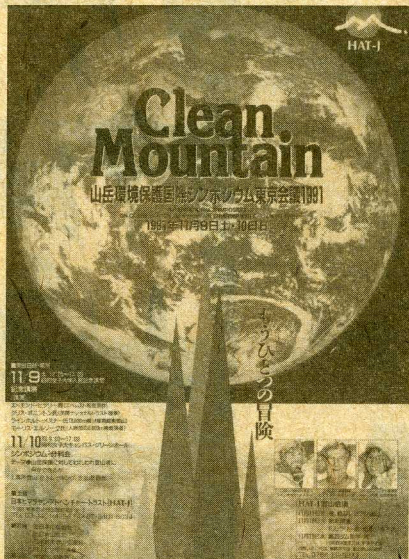


清掃登山に取り組む一流登山家

田部井淳子さん

世界の山岳地帯で、ゴミの増加による環境悪化が深刻な問題になっています。日本では「HAT-J」がこの問題解決のため、立ち上がりました。

先ごろブラジルで行われた「地球サミット」は、国連始まって以来の最大規模の会議でした。環境問題はそれだけ世界の人々が注目している人類の最重要課題ということですよ。WSFジャパンの会員で、一流の登山家としての国際的に活躍している田部井淳子さんは一昨年「日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト」(略称「HAT-J」)を設立し、自然保護、環境保全、浄化を目的に、様々なキャンペーン活動に取り組んでいます。今回はその活躍ぶりをご紹介します。



装備の発達などで手軽に行けるようになったために増える一方で、それに比例し、酸素ボンベや空き缶、プラスチック容器などのゴミが増加し、深刻な問題になっています。こうした状況は、世界各地の山で起こっており、富士山でも山開き前の雪解けの季節には、大々的に清掃登山をしなければなら

ないほどです。

これは、日本の登山界としても座視できない問題として、日本の主だった山岳四団体(日本山岳協会、日本勤労者山岳連盟、日本山岳会、日本ヒマラヤ協会)が集まり、九〇年十月、「HAT-J」を発会、田部井さんを中心

に活動していくことになりました。

活動内容としては、先鋭的なスポーツクライミングから行業客まで、内外の山岳地帯に足を踏み入れる人たちの自然保護、環境保全と浄化の意識高揚のキャンペーンがあげられます。具体的には、海外活動の紹介、有志による日本及び海外の清掃登山、フィールド・マナー向上のための自主的ガイドラインの設置等です。

昨年十一月、活動の一環として、「山岳環境保護国際シンポジウム東京会議一九九一」を開催しました。(ボスター参照)田部井さんは主催団体のHAT-J代表として資金集めのため各企業を回りま

した。しかし、どの会社の担当も、女性が代表者と知ると「女に何ができるのか」という態度で、「十七年前にエベレスト登山のため企業を

エベレスト街道清掃トレッキングの主旨

HAT-J(日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト)は山岳環境を考える組織として1990年秋に発足いたしました。今や環境問題は「理論より実践」への時代です。

国内の活動を地道に続けると同時に広く海外の山の現状を知るため「もう一つの冒険」として11月に世界の屋根・ネパールヒマラヤへのトレッキングを実施することになりました。

ヒマラヤの美しい山々を自分の目で見、歩き、その山麓に生活する人々との対話を大切に、いかに美しく自然とおつきあい出来るかをさぐりたいと思います。そのためカトマンズ、ルクラ、そしてシュルパのふるさとナムチェでは現地の人々との集会をもち、清掃活動をしたいと思っております。今後のトレッキングの在り方の一つの指針が生まれればいいと考えております。まずその一歩を踏み出してみませんか。

HAT-J代表 田部井淳子

回った時と変わらなかった」そうです。最終的に、不足分は田部井さんが「月に二十五回の講演をして」費用に充て、会議は成功のうちに幕を閉じました。

今年十一月には「エベレスト街道清掃トレッキング隊」というツアーを企画しているそうです。田部井さんが引率・同行します。みんなで応援しませんか。詳細をお知りになりたい方は、株式会社 西遊旅行(TEL 03-3237-1391)まで。



▲講師の田部井淳子さん

WSFジャパン主催「第三回女性スポーツフォーラム」は一月二十九日、東京目黒区のごまばエミナースで田部井淳子さんを講師にお招きし、「なぜ山に登るのかー私の登山哲学」のテーマでお話をうかがいました。田部井さ

当日の様子が各新聞に掲載されました。その中の一つをご紹介します。

◇ 「これからが正念場」

登山家 田部井淳子さん
「おごりたかぶらずに、これからも山に登りたい」。女性スポーツ財団日本支部が開いたスポーツフォーラムで、登山家の田部井淳子さん(52)が「なぜ山に登るのかー私の

んは一九七〇年のアンナプルナIII峰を皮切りに、七五年にエベレスト、九一年、ビンソンマシフ(南極大陸最高峰)、コジアスコ峰(オーストラリア大陸最高峰)に女性として初めて登頂し、世界七大陸最高峰を制しています。

この日は、白いセーター姿の軽快ないでたちで三十一人の参加者の前に現れました。身ぶり手ぶりを交えた歯切れのよい話しぶりで、ユーモア溢れるお話には、場内は何度も笑いのウズが起きました。

「八十歳まで登山を続けるとして、六十歳過ぎたら登山口まで車で行き、七十歳代はケーブルで登る。予定と行動を一致させて密度濃く生きたい」と、山登りへの思いを熱く語ってくださいました。今後はHATJの代表としての活動も、大いに期待されるようです。

登山哲学」と題して講演した。

十七年前、女性で初のエベレスト登頂に成功。昨年も南極、オーストラリアの最高峰に登り、これで世界七大陸の最高峰をすべて制覇した。

「豊かな自分をつくるため、これからが本当の山登り。八十歳まで続ける」と意気盛ん。階段を二段ずつ駆け上がるなど日ごろの訓練にも余念がない。

(2/22 産経新聞「近況」より)

選手は一度しか走らない。

感動新

時間の奥にある感動も、計りたい。

JBS25.05

OFFICIAL TIMER

SEIKO

SEIKOは'92バルセロナオリンピックの公式計時を担当します。

株式会社 服部セイコー
SEIKO CORPORATION